海外展開のワンポイント情報

経済がグローバル化する中で、中小企業においても海外展開に関心が寄せられています。そこで当中央会では、今年度も引き続きジェトロからのご案内として、ビジネス情報を連載します。ぜひ、お役立てください!!

JETRO

日本貿易振興機構（ジェトロ）からのご案内

「ブラジル」

サッカーワールドカップに沸いたブラジル、しかしここ最近のブラジル経済は成長要因に欠け、2014年の経済成長見通しは1%半ばの予想、その要因としては、①資源・食糧等のコモディティーブームの終焉と、国内需要、個人消費への影響、②金利の上昇と貸し倒れ拡大に伴う貸し渋り増加による影響、③工業分野において製造コスト増や為替変動への対応の遅れ、技術革新や生産性向上における課題とその影響、④インフラ整備について政府入札の度重なる延期等による遅延、などが考えられます。

ワールドカップの効果は、旅行業、飲食業などにはプラスに働いたと思われますが、工業分野等の活動は停滞する見込みで、効果は限定的と思われます。これを克服していくには、経済基盤の安定、特に為替、インフレの抑制（目標値：6.5％上限）に向け、政策金利の引き上げ（SELIC金利：10.5%）の必要性が唱えられています。

サンパウロ風景

＜日本食がブームに＞

とはいえ、最大の日系人社会を擁するブラジルは、在留邦人も約56,000人、進出日系企業数も578社（出所：外務省「海外在留邦人数調査統計」）にも上ります。最近は資源や食糧分野のみならず、消費市場としてのビジネス機会も広がっています。また、パラグアイ、ウルグアイといった周辺国もブラジルに向けた輸出基地や物流拠点として日系企業の関心が高まっています。

パウリスタ通り沿いの歴史的建造物

一人当たりのGDPは平均1万ドルを超え、過去10年間で約4倍、中間層・富裕層が大幅に拡大しています。日系人が多いことから、日本食レストランは古くからあり、ファーストフードや和食を専門としない食べ放題なども含め、特に世界最大の日系人社会を抱えるサンパウロには750軒以上の日本食レストランが存在します。店舗数は、過去15年間で約4倍（業界調べによる）となっています。業界のアンケート調査によると、日本食レストランに行く頻度は、週1回と月2回が各20％弱、月1回が全体の1/4程度になり、日本食は日系人のみならず、非日系にも浸透しつつあります。また、近年は魚の消費量が2000年比で約2倍増となり、これは健康志向の高まりとチェーン店（手巻き寿司専門店など）を含む日本食レストランの拡大が大きな要因と考えられます。

現状日本食の輸出については、①通関輸送に要する期間を考慮して賞味期限の長い加工食品がほとんど、②ブラジル産、米国産、中国産、韓国産などと激しい市場争いとなっていますが、酒類、菓子類（米菓含む）、麺類など、ブラジル人にも分かりやすく、代替品のない商品は大幅増となっています。

昨夏、三重県はブラジルにミッション団を派遣し、三重の食品のPRや現地企業との商談を行いましたが、日本酒、豆腐、調味料など大変好評を博しました。

ジェトロサンパウロ、ジェトロ三重

＜ブラジル基礎情報＞
①人口：1億9,840万人（2012年）②一人当たりGDP（名目）：11,311米ドル（2013年、IMF）、③消費者物価上昇率：5.9%（2013年、前年12月比、ブラジル中央銀行）、④失業率：5.4%（2013年、ブラジル中央銀行）

ブラジルに関して必要な情報、ご質問などございましたら、ジェトロ三重（TEL 059-228-2647 FAX 059-228-3185）までご連絡お待ちしています。